

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770600423		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホームあびこ(太陽)		
所在地	大阪府泉大津市我孫子150番地		
自己評価作成日	平成23年2月13日	評価結果市町村受理日	平成23年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町2-1-8
訪問調査日	平成23年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は住宅と田園風景が広がり、のどかな環境の中にあります。近くには大きな公園があり、休日には野球をする子供たちや、世話をする保護者の方たちの姿が見られます。春には見事な桜やつつじが花を咲かせます。また冬には可憐な水仙が入居者様や職員の日を楽しませてくれ、季節を感じるには絶好の散歩コースになっています。
愛の家グループホームあびこでは入居者様の気持ちに寄り添い、楽しい時には共に笑い、悲しい時には慰め、入居者様の「できること」を最大限に引き出せるようお手伝いさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体はグループホームの運営、管理を事業として全国展開している。よりよい地域社会を創りあげる事を事業目的としている。当ホームは周囲にまだのどかな田園風景が残っている住宅地の一角にある。管理者は支援の中で「出来るだけ外へ出かけ、笑顔を持つよう」に力を入れて利用者の免疫力を高める事を目指している。午後のゆとりのある時間帯にドライブ、外食、散歩等外気に触れる機会を多く持つようになってから、確実に利用者に変化が見られるようになってきた。「入所前に比べ健康になった」「本人の表情が柔らかくなって、家族もびっくりしている」等の家族の喜びの声も多々ある。『認知症サポーター養成講座』に職員8名も参加し地域で暮らす認知症の人やその家族を支援するキャラバンメイドに育っている。職員は地域の活動や交流に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示すると共に朝礼時に唱和し、日常的な実践に繋げている。	法人の理念を玄関入口に掲げている。朝礼時に理念を唱和し、理念の共有を図っている。理念について会議や研修で話し合っているが、事業所独自の理念が出来ていない。	法人の理念そのままを事業所運営理念としている。地域密着型サービスの意義を考えて、事業所の現状に合った事業所独自の理念が求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月には納涼祭、12月には餅つき大会を開催し、地域の方々にも多数来て頂いた。町内会にも参加し、交流の機会を持つようになっている。	事業所は自治会に加入している。夏の納涼祭や年末の餅つき大会では模擬店など出して、多くの地域住民との交流を深めている。地域の「ふれ合い祭り」に出品したり、職員は地域で介護の相談者として活躍している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談会の開催や、包括支援会議への参加、認知症サポーター養成の手伝いをさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの運営やサービスについて報告を行っている。会議で得られた意見をサービス向上に活かしている。	目標に掲げた年6回の運営推進会議の開催は実施出来ている。参加メンバーの市職員、自治会長、民生員等には参加を促しているが定着率が低く、事業所運営やサービス等この協議が十分出来ていない。	利用者、家族、地域住民、行政の職員等幅広い人に参加してもらえるように働きかけると共に開催日時、曜日等に融通性を持たせて参加を促すことが求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する事、サービスに関する事など、分からない時にはいつでも相談するようにして、日頃から連絡は密に取るようになっている。	日頃から介護保険課には直面している運営や困り事など、積極的に相談してよいアドバイスと指導の下で解決へ向けている。市からの介護相談員も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという事を、法人全体で取り組んでいる。フロア入口は鍵を掛けず、入居者様は自由に出入りできるようになっている。	職員は身体拘束の弊害に関する研修を実施し、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を理解している。安全面に配慮して自由に過ごせるように日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修の機会を設け、職員は常に虐待や身体拘束に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学んだ。家族様で活用を考えておられる方には、資料をお渡しできるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ、十分に説明を行っている。疑問や不安な点があれば、いつでも対応することを伝え、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一年に一度、家族様にアンケートを送付し意見や要望をお聞きするようにしている。得られた意見や要望を活かし、サービスの質の向上に努めている。	毎年、家族へアンケートを送付して、そこで得られた意見や希望・要望をサービスに活かしている。家族の面会簿も個人情報保護に配慮して他の面会者にわからない工夫をするなど、些細な事柄も受け止めるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議で得られた職員からの意見や提案を、可能な限り尊重し反映させている。	代表者、管理者は職員の要望、意見をユニット会議やミーティング等で聞きだす機会を設けている。職員が希望する外部研修や資格取得にも積極的に理解を示し、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のやりがいを持てるよう、勤務状況や実績等を評価し、給与に反映させている。業務の見直しを行い、職場の環境を整えるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための支援や外部研修、ホーム内研修を行い、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとのネットワーク作りに取り組んでいる。現在相互訪問や勉強会の開催はできていないが、将来的には交流を通じてサービスの質の向上を図っていく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に自宅にお伺いし、入居者様から話を聞くと共に、状態を把握し、ご本人が安心、安全に生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に家族様から話を聞き、入居者様や家族様が安心し、落ち着いて生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様と家族様の状態を理解し、その方に合ったサービスを提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を介護するのではなく、「一緒に行く」「できないことをお手伝いさせて頂く」ということを念頭に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは面会時や電話で、常に入居者様の様子をお伝えし、家族様と職員が共に支えていくという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方に面会に来て頂いたり、地域資源の活用、または親しい方への電話の支援など、関係が途切れないように努めている。	事業所は家族に利用者への電話、訪問の依頼をしたり、馴染みの美容室への付き添いや飲食店、スーパーでの買い物に出向くなどして、親しい人や場所との関係を保つ支援をしている。本人のお付き合いが、途切れず継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や、相性などを考慮し、食事やレクレーションの時の座る場所を工夫し、一人ひとりが孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも電話をして様子をお聞きしたり、面会に行かせて頂いたりし、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向に沿えるように努めている。困難な場合は本人本位になるよう、家族様や職員で検討している。	常に本人本位の視点にたつて、その利用者が大切にしているものは何かを傾聴し、職員間で共有している。利用者の何気ない言葉から利用者の思いや希望を汲み取りるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに情報の収集に努めているが、入居されてからも会話の中や生活の様子から、これまでの習慣や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の事を日々観察し、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員だけではなく、家族様や関係者と相談し、介護計画を作成している。また定期的なモニタリングを行い、介護計画の見直しもを行っている。	設定された期間ごとにモニタリングを行い利用者本位にたつて介護計画は作られている。日常のかかわりの中でも本人、家族からの新しい要望などを把握したら介護計画に反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録はケアプランを基に記入している。担当者会議や、記録などから情報共有を行い、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応するため、職員は柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーやレストランでの外食、ボランティアの方々に来て頂いたりし、豊かな暮らしを楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは24時間連絡がとれるようになっており、体調に変化のあった場合は夜間でも対応して頂いている。診察の結果は家族様に報告し、常に適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関との関係がよく、24時間何時でも対応してくれるので利用者、家族は安心感を持っている。これまでのかかりつけ医を必要とする場合は家族の協力を得ながら受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化や気づきがあった場合は直ぐに連絡し、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中はこまめに病院を訪問し、家族様や病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、早い段階から家族と話し合いを行い、十分に説明し方針の共有を図っている。グループホームでの対応が困難な場合は、近隣の受け入れ施設を紹介させて頂いている。	重度化や終末期の事業所対応については入所時に事業所が対応し得る最大のケアの限界を説明して本人、家族の同意を得ている。本人が医療行為が必要となった時は本人、家族の要望を踏まえ納得を得て医師と話し合い近隣の受け入れ施設へ紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応について、定期的に研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に二回消防署の協力の下、夜間を想定した消防訓練を実施している。	消防署の協力を得て昼夜想定訓練を年2回実施している。ホーム内にはスプリンクラーや消火器、火災報知器が設置されている。「防災用自主点検表」で日頃から点検をしているが地域との協力体制が見られない。	災害は何時来るか判らない。「運営推進会議」で事業所の実情を話し合い、実際に即した具体的な地域の人々の役割もはっきりさせた連携体制が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの性格や生活暦を理解、把握し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	職員研修で個人情報保護や本人の誇りやプライバシーの勉強会を実施している。介護の現場で利用者に接するときの態度や言葉遣いなどの接遇には十分な配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様には職員の意見や考えを押し付けるのではなく、「どちらにしますか」「どうされますか」等お聞きし自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様はお一人で居室で過ごされたり、皆様と一緒にテレビを見たりお話をされたりと、思い思いに過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様がその人らしい身だしなみができるよう、職員は服を選ぶお手伝いをしたり、髭剃りの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく出来るような雰囲気作りや声掛けをし、準備や片付けは決して無理強いないで、その時々様子で、お手伝いして頂いている。	法人の本部で栄養管理士から栄養バランスのよいメニュー表が送られてくる。ホームで買い物から調理までをして利用者も手伝いの出来る人は一緒に準備や後片付けをしている。職員も一緒に同じものを食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分量をチェック表にて把握し、栄養の摂取や水分の確保ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。ご自分で出来ない方は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	「ケア日報」に一日の排尿・排便の記録をとっている。お腹に力を入れられない利用者が便秘にならないように、嚥下体操、きな粉ドリンク飲用、ラジオ体操などして排便を促す支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉牛乳の飲用や散歩、ラジオ体操などの運動でスムーズな排便を促すようにしている。飲むヨーグルトを飲用される方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴はできていないが、隔日に入浴していただいている。入浴の声掛けに拒否された場合は、時間や順番を変えて再度声掛けを行い、ご本人の希望やタイミングに合わせようとしている。	基本的には一日おきの入浴支援をしているが毎日の入浴を希望される人は毎日でも柔軟に対応している。拒否の利用者には足浴、部分浴を促して清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた場合は居室に戻って休養して頂くようにしている。夜間の眠れない時にはお茶や温かい牛乳を提供したり、おしゃべりをして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量について理解している。薬の処方変更になった場合は、体調に変化がないか観察するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が充実した生活を送れるよう、生活リハビリをかね、お手伝いをして頂いたり、レクレーションを通して楽しんで頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や、外食・外出などの行事がある。入居者様の希望があれば、職員と一緒に買い物に行けるように支援している。	毎日の散歩は元気な人、車椅子の人も公園や近くの商店へ買い物に行き、顔なじみの近隣の方々と会話を楽しんでいる。本人の希望で近くのお好み焼き店へ行ったり、車でドライブや買い物に出かけるなど、外出を積極的に支援して。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所でお預かりしているが、買い物に行く時に、出来る方にはご自分で払って頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が電話を掛けたいときや、家族様から電話を掛けて来て頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の準備をしている音や匂い、窓から入る光が眩し過ぎないように、カーテンで調節したり、フロアの温度や湿度に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	リビング、食堂は採光がよく明るい。ソリューション・ウォーターの噴霧器を設置して住まいの除菌消臭に気をつけた衛生管理もされている。廊下の一角に木製の椅子の設置や、大きな観葉植物、季節の花も置かれて落ち着いた雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出窓の下にあるベンチに入居者様同士、または入居者様と家族様が座り、話をしたり思い思いの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具や調度品を持ってきて頂くようにしている。仏壇や家族の写真や飾り、ついたてを置いて他の方から直接見えないようにして、居心地よく過ごせるような居室作りをしている。	馴染みの整理たんすや寝具の品々、仏壇を持ち込まれたり家族写真等を傍らに飾ったり、畳を部屋に取り入れている部屋、それまでに過ごした環境に出来るだけ近づける工夫がされて居心地良い部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札をつけ、ご自分の部屋が分かるようにしたり、トイレには表示をして間違わないようにしている。また廊下やトイレ、風呂場には手すりを設置し、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		